

第3回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和5年7月13日（木）13時30分～

委員長 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をご覧ください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い傍聴くださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、ただいまより第3回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

本日の次第をご覧ください。今回、ご審議いただく内容は、議題1「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」と議題2「令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の2点でございます。

まず初めに、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき、会議録署名委員を指名します。委員長の私のほかに、今回も繁里委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

繁里委員 承知いたしました。

委員長 どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。では、繁里委員、よろしくお願いいたします。

それでは、審議の前に資料などについて事務局に説明を求めます。

事務局

第2回審議委員会から本日までの特別支援教育に関する教科用図書の調査研究の流れについて説明いたします。

今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、「児童生徒の実態に合った一般図書を充ててもよい」とされているものでございます。

5月8日から5月12日まで県立総合教育センターにて展示会が開催され、白浜養護学校と市内小中学校、特別支援学級の教員が、展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や次年度入学する児童生徒を想定して、調査研究を行い、その結果について、該当学校から「教科用図書調査書」が提出されております。

それでは、資料の説明をいたします。

まず、サイドテーブルをご覧ください。そちらには、「令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」と「特別支援教育関係教科用図書見本本」の一部が展示してあります。「令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教員に調査研究させたものを簿冊としてまとめたものです。

次に、「令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書」を基に、事務局でまとめたものです。

では、こちらの1ページをご覧ください。この一覧表は、附則第9条による図書を4つに分けて表記してあります。

一覧表の右上のところをご覧ください。まず1つ目は「新」の文字を記載したもので、これは、今回調査研究をした結果、新たに教科用図書としてふさわしいとして提出された新規図書

でございます。

2つ目は「□」の記号を記載したもので、これは、昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科用図書としてふさわしいとされた図書でございます。

3つ目は「●」の記号を記載したもので、これは、昨年度採択された図書で、令和6年度に発行者による供給が困難となった図書でございます。

最後、4つ目は無印のもので、これは、昨年度採択され、本年度も教科用図書としてふさわしいと調査された図書でございます。

なお、資料1として、21ページから27ページに新規図書と複数種目で希望のあった図書等を一覧表にしてお示ししてございます。この資料には、児童生徒一人ひとりの特性や発達段階を踏まえた上で各学校が一人一人に適した教科用図書として選定した理由を記載してございます。

続きまして、19ページをご覧ください。一覧表の最後、No.10 道徳の欄の下になりますが、ただいま説明をいたしましたもののほかに、一般図書として、点字教科書、拡大教科書がございました。また、「令和6年度使用小学校用教科用図書、令和6年度使用中学校用教科用図書」、「特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書」も採択可能な教科用図書として記載してございます。

なお、「特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書」につきましては、資料2として、28ページから30ページにお示してございます。これは、第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和6年度使用）」をお渡しいたしましたが、この中で聴覚障がい者用として言語指導の図書と知的障がい者用図書として挙げられております。「☆印本」と呼ばれている図書でございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につつま

して、31ページに資料3として記載させていただきました。

以上で、資料の説明を終わります。

委員長 ありがとうございました。

 ただいま資料について説明がありました。

 なお、令和6年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科
用図書調査書につきましては、個人情報などの問題がございます
ので、非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

 それ以外の資料などについて、何かご質問などはございま
すか。

各委員 なし。

委員長 では、無いようですので審議に入ります。

 新規の図書については、本審議委員会が初めて審議する場と
なっておりますので、慎重な審議をお願いしたいと考えます。
どうぞよろしく願いいたします。

 それでは、これから審議してまいりたいと思いますが、審議
の進行について何かご意見はございますでしょうか。

澤野委員 各学校からは、子どもたちの障がいの特性や発達段階に応じ
て教科用図書として使用できる一般図書がたくさん出されてき
ています。特別支援学校や特別支援学級に在籍する子どもたち
にとって、ふさわしい教科用図書として、附則第9条によって
使用できる一般図書を幅広く用意することが大切だと考えま
す。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はいかがでしょうか。

村田委員 私も同じように考えます。今回、各学校で調査研究をした結果、教科用図書にふさわしいものとして、新規図書や複数の種目で使いたいという一般図書が数多く出されております。

 本校の調査の様子を見ましても、子どもたち一人ひとりの実態を踏まえて精査しておりましたので、昨年度までに採択された一般図書は「●」の発行者による供給が困難となった図書を除いて引き続き採択し、今年度新たに出された一般図書について審議していければよいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。

和田委員 私も同じように感じています。採択の幅を広げるためにも、この調査書まとめに示されている複数の種目で申請のある「□」の印の図書、また、今年度新たに希望が出ている「新」並びに「新□」の図書について審議していくのはいかがでしょうか。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、ただいまのご意見を受けまして、各学校から希望が出ている一般図書について、教科書として使用できる方向で考えていくことということと、これからの審議の進行については、新規の図書と複数の種目で希望が挙がっている図書について審議をしていくということによろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長

では、そのように審議を進めてまいります。

こちらの資料の調査書まとめの印で言いますと、「新」と書かれている新規図書、そして、「□」の印がついている複数の種目で希望が挙げられている図書についてご意見を伺いたと思います。新規図書や複数種目で希望がある図書については、No. 1の国語・書写からNo. 10の道徳までの種目に合計50冊入っております。

審議につきましては、学校からの調査書には、どんな特性の子どもにどんな教科書がふさわしいかという点が挙げられているということから、子どもたちの実態や特性という視点からのご意見を伺いたと思います。

審議の都合上、分野を3つに区切って審議を進めたいと思います。

それではまず、No. 1の国語・書写とNo. 2の算数・数学の教科領域で申請が上がっている21冊の図書についてご意見を伺いたと思います。よろしいでしょうか。では、お願いいたします。

松川委員

私は、No. 1の国語・書写の教科領域の中から2冊の図書について述べさせていただきます。

1番、金の星社の「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」ですが、一つ一つの名前、それらをまとめた名前、身近なものから町や自然の中にあるものまで、たくさんのもので名前がイラストとともに表示されているので、文字だけでなく絵を頼りに理解する子どもたちの語彙力向上の助けになると思います。また、クイズやコラムがあり、楽しみながら、いろいろな名前と出会い、言葉を増やしていくことができ、言葉の世界を広げることができるのではないかと思います。

もう一つは、10番、交通新聞社の「のりものあいうえお」

です。この図書は、サイレンカー、鉄道、工事の車など様々な乗り物が登場し、乗り物の名前で平仮名を学習することができます。特に乗り物が大好きで興味関心の高い子どもたちなら、写真が多用されているので目を引き、取り組む意欲が高まると思います。また、筆順が示されており、指でなぞり書きができるため、繰り返しの練習をすることができ、文字の習得に適しているのではないかと思います。また、各ページの挿絵にイラストが添えられており、当てっこ遊びなどをしながら、楽しく学習できるのではないかと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の1番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」と10番「のりものあいうえお」についてご意見を伺いました。ほかにございますでしょうか。

澤野委員 私も国語・書写の教科領域の中から、1番の金の星社「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」について意見を述べます。

物の名前は、そのもの自体を見たり、触ったり、また、イラストやカードを見たり、大人に、「これ何？」なんていうふうに聞きながら覚えていきます。例えば、「ニンジン」は、ものの名前ですが、「野菜」は、カテゴリーで、その区別は生活経験の中で自然に身につけていくものと考えます。それでも、中には学習が積み上がりにくい子どもや生活経験の少ない子どももいます。この図書は、冒頭でこの本の使い方として、カテゴリーをまとめた名前、ものの名前を一つ一つのものの名前として、花をかたどったマークで区別して示しています。繰り返しイラストを見ることで、自然に単語としてのものの名前ではなく、意味合いをもったものの名前が覚えられるところが優れて

いると感じました。

松川委員もおっしゃっていましたが、イラストを頼りに理解が深まり、楽しみながら、いろいろな名前と出会い、言葉を増やしていけるとと思います。イラストもシンプルで見やすく、配置や分量もちょうどよいというふうを感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の1番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてのご意見をいただきました。ほかにございますでしょうか。

川島委員 先ほど松川委員のほうからもお話があったのですが、「のりものあいうえお」に興味を持ちましたので、お話をさせていただきたいと思います。

まず、この本なのですが、この本は乗り物と大きな平仮名が見開きのページに載っています。乗り物が好きな子どもは、その乗り物の名前と関連づけながら平仮名に触れることができるかなと思いました。五十音順で並んではいますが、五十音順で学ぶ必要は全くないと思いました。例えばひろし君だったら、ひろしの「ひ」から始めればいいですし、ゆうこさんだったら、ゆうこの「ゆ」から始めればいいかなと。先生と一緒に本をめくりながら、自分の名前の文字と突き合わせたりして、自然と無理なく覚えることができたらいいかなと思っています。

もう一つ、リズムカルな文章が載っているのです。一緒に読んでいくうちに、音であるとか、文字であるとか、そういったものを覚えることができるかなと思ったところです。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の10番「のりものあいうえお」についてご意見を伺いました。ほかにございますで

しょうか。

金田委員　私も、1番の「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてお話しさせていただきます。

全体的に優しい雰囲気イラストで、見ていて、ちょっとほっとするような感じもある中で、私は道路標識のところ、「青と赤と黄色はこういう意味だよ」と、細かく分からなくても、ぱっと見て、「あっ、これは駄目なんだ」とか、そういうことも子どもに伝わるように工夫されているところが、とてもいいなと思いました。

以上です。

委員長　ありがとうございます。国語・書写の1番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてご意見を伺いました。ほかにございますでしょうか。

原委員　私も同じになってしまいましたが、No. 1 国語・書写の2冊とNo. 2 算数・数学の1冊についてお話をさせていただきます。

まず、国語・書写、1番の「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」についてです。この本は、町で見かけるものの名前をポップなかわいらしいイラストで細かく描いているため、イメージしやすい印象を受けました。ふだん当たり前に使っているお店や施設、乗り物など、利用はしているけれども、名前を知らなかったり、使い方が分からなかったりすることがあると思います。この本で、実際、その場面にいるような感覚で読み進めることができ、児童のわくわくした表情と笑顔を想像することができました。また、クイズ形式になっているので、ものの名前が入りづらい児童が繰り返し楽しく取り組める教材になっていると感じました。

次に、10番の「のりものあいうえお」についてですが、乗

り物が大好きな児童には、乗り物のイラストとともに平仮名の書き順が書かれているので、平仮名を練習するにあたって、興味深く意欲的に取り組めると感じました。また、乗り物についての説明は、先ほどもお話がありましたが、韻を踏み、リズムのいい文章になっているので、内容を理解しにくい児童にとっても楽しく、喜びを感じながら学習できると思いました。テンポが心地よく、自然と真似をして発声ができることも期待できると感じました。

最後に、No. 2 算数・数学についてですが、1 番の「はじめてのすうじ かず・けいさん 1」のお話をさせていただきます。こちらは、くもん出版が発行しているシリーズのドリルで、真っすぐな線や曲がった線を引く練習を行い、段階を踏みながら数字を書く練習をするものです。1 枚ずつ切り離して学習を進めることができるようになっているので、学習し終えたという満足感や達成感を味わうことができると思います。紙質がしっかりしているので鉛筆を滑らせやすく、余白が多いデザインで見やすいため、取り組みやすいと感じました。鉛筆を持つことや数字を書くことに興味をもち始めた児童には、とてもよい教材だと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございます。国語・書写の 1 番「ことばって、おもしろいな『ものの名前』絵じてん町」、そして、10 番「のりものあいうえお」、算数・数学の 1 番「はじめてのすうじ かず・けいさん 1」についてのご意見を伺いました。ほかにございますでしょうか。

宮崎委員

私は、ワーク、ドリルという観点で意見を述べたいと思います。

まず、国語・書写の 3 番、「くもんの読解力を高めるロジカ

ル国語」と11番、清風堂書店の「国語習熟プリント」についてです。

2冊ともに共通しているのは、ドリルということなので、スモールステップで学習に取り組むことができるように工夫されている点です。子どもができた、分かったという達成感をもつことができ、繰り返しの反復練習によって無理なく力をつけられるように工夫されている点が共通していると思います。

また、「読解力を高めるロジカル国語」は、独自の「“なぜなら”問題」というのがありまして、それに取り組むことで、子ども自身が確かめながら学習を進めることができ、考える力や表現する力を伸ばしていくことに期待ができると思います。また、「国語習熟プリント」にある「ワンポイントアドバイス」は、どのように考えていいか、迷ってしまうというような子どもたちにとって、大變的確なヒントになるというふうに思いました。

ワーク、ドリルという関連で、No. 2の算数・数学についても述べたいと思います。算数・数学の1番、「くもんのはじめてのすうじ かず・けいさん1」と6番の成美堂出版の「はじめてのえんぴつちょう2・3・4歳はじめてのすうじ」についてです。

「くもんのはじめてのすうじ」は、先ほど原委員のご発言にもありましたけれども、やはり数字の学習に入る前に線を学習させるということが秀逸だなと思います。短い線から長い線になって、斜め線、そして曲線、円形というふうに、だんだん複雑な線を描く学習にステップアップしていくように構成されていて、これは数字を書くという大變難しい手の動きの練習になるというふうに思いました。また、「はじめてのえんぴつちょう」は、リンゴ1つと数字の1を合致させたり、シールを2枚、自分の手で貼るという作業に取り組みながら、数の概念を習得できるというふうに思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の3番「くもんの読解力を高めるロジカル国語 小学3年生」、そして、11番「国語習熟プリント小学3年生」、さらに算数・数学1番「はじめてのすうじ かず・けいさん1」と6番の「はじめてのえんぴつちよう2・3・4歳はじめてのすうじ」についてのご意見を伺いました。そのほかにご意見はございますでしょうか。

山崎委員 よろしく申し上げます。先ほど宮崎委員がドリルというくくりでお話をされていましたが、私も国語・書写、そして算数・数学の教科領域で申請があがっているドリルについて話をしたいと思います。

まず、国語・書写の2番と4番、くもん出版の「言葉と文法にぐーんと強くなる」シリーズの小学1年生、3年生。それから算数・数学の3番、くもん出版の「計算にぐーんと強くなる小学5年生」。同じく2番、くもん出版の「小学ドリル算数計算4年生の分数・小数」。また、算数・数学の10番、清風堂書店の「陰山ドリル初級算数小学4年生」についてお話をしたいと思います。

5冊ともドリルということで、1ページに非常に内容がまとめられているので、その時間の学習内容がはっきりと分かる形になっているかなと思いました。また、易しいところからステップで丁寧に学び、繰り返したり、確かめたりしながら学習の定着を図るような構成になっています。

くもん出版の「ぐーんと強くなる」シリーズなんですけれども、單元ごとに最初にポイントがまとめられていて、ポイントをしっかり押さえてから練習問題に取り組むことができるような構成になっているかなと思いました。

それから、清風堂書店の「陰山ドリル」は、算数などの計算

問題では、まず目が描いてあるので、位に気をつけながら記入できるようになっているかなと思います。また、ページ、内容によっては、数字をなぞってから取り組むことができる工夫も見られました。

5冊とも、1ページあたりの書く量や問題数も無理なく取り組める分量ではないかなと思いました。

国語・書写については、見開き1ページでうまくまとまっているかなと思います。子どもたちにとって分かりやすく、それぞれのペースで取り組むことができるドリルだな、と感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。国語・書写の2番「言葉と文法にぐーんと強くなる小学3年生」と4番「小学1年生言葉と文法にぐーんと強くなる」、それから、算数・数学のほうは、2番「小学ドリル算数計算4年生の分数・小数」、そして、3番の「計算にぐーんと強くなる小学5年生」についてのご意見を伺いました。そして、さらに10番「陰山ドリル初級算数4年生」についてもご意見を伺いました。ほかに、ご意見はございますでしょうか。

和田委員

私も山崎委員と同じく、No.1国語・書写、そして、No.2算数・数学で申請があがっているワークについて意見を述べさせていただきます。

まず、国語・書写の5番、太郎次郎社「漢字がたのしくなる本2改訂版 128字のあわせ漢字」では、「おもしろいかんじのはなし」として、漢字の起源や象形文字からの変化などが紹介されておりまして、興味をもって学習に取り組める工夫がなされています。また、仲間探しやジグソーパズル形式を取り入れ学習することによって、飽きることなく集中して取り組める

工夫もなされています。全体的に漢字の成り立ちを説明しやすいつくりとなっていると感じました。

次に、算数・数学の5番、こぼと「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」では、果物や動物など、子どもたちが親しみやすい図柄も一部取り入れ、抵抗なく学習に取り組める工夫がなされています。また、迷路学習は、楽しみながら集中力や注意力を身につけていくのには、よい教材であると感じました。1問1問、文字も大きめに出题されており、取り組みやすさも感じました。

同じく4番、こぼと「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」は、ウォーミングアップから始まり、無理なく九九を習得できるような構成となっています。また、ボールやミカン、たこ焼きといった図を問題に取り入れることで、イメージを持って取り組める工夫がなされていました。こちらも文字が大きめになっており、全体的に見やすいつくりであると感じました。

続いて、算数・数学、9番、実務教育出版「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」についてです。割り算の筆算などにおいて、つまずきやすいポイントを丁寧に解説し、その後、「たしかめよう」「ためしてみよう」という構成になっているので、間違いの原因などが発見しやすくなっています。「ためしてみよう」では難易度が示されており、子どもたちの実態に合った取組が可能となるよい工夫であると感じました。

委員長

ありがとうございました。国語・書写の5番「漢字がたのしくなる本2改訂版 128字のあわせ漢字」、そして、算数・数学から、5番「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」と4番の「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」、そして、9番の「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」についてご意見を伺いました。そのほかにご意見はございますでしょうか。

繁里委員　私も、No. 1 国語・書写とNo. 2 算数・数学の教科領域で申請が上がっているワークについて述べさせていただきます。

国語・書写の 6 番から 9 番、喜楽研から出されている「ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク」の 4 冊、また、算数・数学の 7 番と 8 番、喜楽研の「ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント」 2 冊についてお話ししたいと思います。

いずれも共通して、ゆっくりと丁寧に段階を追って学習ができるようになっていきます。また、繰り返し問題を解くことで学習内容の定着を図るような構成になっています。1 回当たりの書く量や問題数も無理なく取り組める分量ではないかと思えます。

国語・書写のワークでは、質問文が分かりやすく、また、振り仮名も記載されておりますので、子どもたちには、学習に意欲的に取り組めると思えます。算数のワークでは、イラストが分かりやすく記載されているため、視覚的にも課題を理解しやすいので、子どもたちが集中力を維持しながら学びを進められると考えます。

以上です。

委員長　ありがとうございます。国語・書写の 6 番から 9 番の「ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク」の「1-2」「2-2」「3-1」「3-2」についての 4 冊と、算数・数学の 7 番、8 番、「ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント」の「1-2」と「2-2」の 2 冊についてのご意見を伺いました。そのほかに、ご意見はございますでしょうか。

川島委員　今、繁里委員からお話があったのですが、「ゆっくりていね

いに学びたい子のための読解ワーク」、特に国語のほうなのですけれども、ちょっと気になったので、お話しさせてください。

「読解ワーク」の「1-2」というのは1年生。「2-2」というのは2年生。「3-1」「3-2」というのは、3年生に、それぞれ使えるワークなのですけれども、私の今までの感覚・経験から言うと、こういうワークは、特別支援学級で使うときには実年齢よりも比較的低いものを使う。例えば小学校1年生の子に対しては3歳児のものとかを使うことが結構多いと思っています。ただ、このワークの中では、1年生用のワークの中に「おおきなかぶ」が出てくるのです。それから、2年生用のワークの中には、「スーホの白い馬」。3年生用のワークの中には、「ちいちゃんのかげおくり」。それぞれの学年の教科書の教材が使われていて、いいなと思いました。

では、あとはどこが違うのかという話になるわけですがすけれども、まず、漢字は、振り仮名は振ってあるものの、そのまま使われています。だから、子どもが今同じ学年の勉強をしているという感覚をもてるかなと思います。どこが違うのかというと、スモールステップで進めるように、最初は1文の読み取りから始まるのです。次に、2文の読み取り、それから、3文の読み取り、そういうスモールステップが続きながら、同学年で使っている教材の読み取りを進めていくというつくりになっていて、子どもが混乱しにくい、ゆっくり丁寧という取り組み方ができるかなと思いました。

また、先ほど和田委員のほうから話があった「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」ですけれども、算数という教科においては、計算そのものをすごく苦手になっている子と、文章題を苦手になっている子がいるかと思っています。このワークについては、基本、文章題を苦手としている子を対象とするような形で作られているのですけれども、スタートのところでは、「計算はこういうふうにするんだよ」という説明が入っている

ので、取り組む子どもは、計算を苦手に行っている子にしても、文章題を苦手に行っている子にしても、「何となくこれならできかな」「できそうかな」という、そんな気持ちを維持しながら取り組むことができるのではないかなと思ひながら見させていただきました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。国語・書写の6番から9番の「ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク」の「1-2」「2-2」「3-1」「3-2」と算数・数学の9番「つまずきをなくす小4算数文章題〔改訂版〕」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

澤野委員 先ほど、和田委員もおっしゃっていましたが、私も算数・数学の中で5番のこぼと、「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」について述べたいと思ひます。

この図書は、認知の力を高めるために、覚える、写す、見つける、数えるなどを繰り返して行うつくりになっています。点つなぎや手本と同じ位置にマークや点を打つ学習は写す力を、文字や記号の数を数える学習は数える力を育みます。そして、これらの力は学習の土台となるものです。間違いがないように正確さを目指したり、時間を測って速さを目指したりするなど、一人ひとりの発達段階や学力に応じて活用することができます。問題数も集中力が途切れない程度の分量です。そして、白い紙に黒一色で書かれていて、問題も端的で、また、イラストも載っていないんです。これは気が散らないような工夫であるなというふうに感じました。

あわせて、同じく4番こぼとの「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」は、掛け算、割り算、分数、小数といった算数の基礎基本の力を身につけるのに適していると思ひます。スモールス

テップで学習を積み上げることができるように、少しずつ問題数が増えたり、難易度が上がったりにしています。こちらも黒一色で書かれていて、集中しやすいつくりになっています。

この2冊は、子どもが集中して取り組み、スモールステップで学力を積み重ねていくことができる図書であるというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。算数・数学の5番「中級編ジャンプアップ集中力・注意力アップトレーニングシート」と4番の「中級編ジャンプアップさんすうⅢ」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。

それでは次に、No. 3の生活・地図・社会からNo. 4の生活・理科の教科領域で申請が上がっている15冊の図書についてご意見を伺いたいと思います。この中には、ほかの種目でも希望が上がっている図書がありますので、それも含めてご意見を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。それでは、ご意見をお願いいたします。

日置委員 私は、この2つの領域から4冊の本について意見を述べさせていただきます。

まず、No. 3生活・地図・社会の領域の2番「名人はっけん！ まちたんけん（1）つくるひと」についてです。小学校3年生では、社会科が始まります。自分の住む地域の安全を守るための活動や産業の様子などをよく知るために、学区たんけんや町たんけんをします。その活動の参考になる本だと思いました。

本書はシリーズの第1巻で、子どもたちにとって興味を抱きやすい「つくるひと」を紹介しています。町には様々なものをつくる仕事をする人がいること、自分たちが見ていないときでも、その人たちは仕事をしていることが写真や短い言葉で説明されています。実際につくっているところや作業しているところが見られる機会は少ないと思いますので、こういったイメージしやすい本を読むことで、子どもたちの視野を広げたり、働くということを意識させたりすることにもつながり、また、自分たちが暮らす地域へも興味をもてるのではないかと思いました。

次に、同じ領域の3番、金の星社の「おてつだいの絵本」です。この本には、日々の暮らしの中でお手伝いができそうなことはないかな、どうやったらうまくいくかなということがたくさん書かれています。この本を参考に、楽しく進んで子どもたちがお手伝いをするようになれば、周りの人から感謝されて、自己有用感も上がり、自分は社会の役に立つ存在なんだということを確認できるのがとてもいいなと思いました。この本は既に家庭・職業家庭、道德の図書として採用されていましたが、社会の一員としての自覚を育てるという視点から、生活・地図・社会の教科領域での活用もふさわしいというふうに思いました。

続いて、同じ領域、6番、チャイルドの「チャイルドブック こども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」です。子どもたちが好きなことや得意なことを生かして将来のことを考えるときに参考になる1冊です。子どもたちが憧れそうな職業や、それに似ているけれども、子どもたちにはあまり知名度がないような職業も一緒に書かれています。例えば、大工さんを大きく紹介しているんですけども、それに関連した家づくりの仕事として、建築士、インテリアコーディネーター、左官、とび、庭師の仕事なども紹介しています。自分たちの暮らしを支えてくれる様々な仕事があるということにも気づくことができ、

また、読んだ後に、先生や友達と「〇〇さんはこの仕事に向いているんじゃないかな」という楽しい話合いをして、新しい目標や夢を見つけることもできる1冊だというふうに思いました。

続いて、No. 4 生活・理科の領域から1冊、お話をしたいと思います。

6番、世界文化社の「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」についてです。体の中にある細胞を活躍するメンバーとって、働きを分かりやすくイラスト化しています。体には様々なSOS、トラブルが、どのようにして起こっているのか。そのとき、メンバーたちは、どのように対応していくのかということがかなり詳しく描かれています。体に起こる変化に興味をもつであろう子どもたちも満足できる情報量であると感じました。また、スマートフォンやゲームのやり過ぎによって起こる体のSOSについても扱っていて、自分の生活や健康について振り返ったり、よりよい生活について考えるきっかけの一つになることが期待できる本だと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。生活・地図・社会の2番「名人はっけん！まちたんけん（1）つくるひと」と3番の「おてっだいの絵本」、6番の「チャイルドブックこども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」。そして、生活・理科では、6番「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」についてのご意見を伺いました。ほかに、ご意見はございますでしょうか。

金田委員

No. 3 生活・地図・社会の分野とNo. 4 生活・理科の分野からいくつかお話しさせていただきます。

まず、生活・地図・社会のところの1番「学習かるた都道府県かるた」のところで、かるたの絵札自体にも、県の形だけで

はなくて山や川も記載されているところが、「あっ、こんな大きな川があるんだね」とか、いろいろなイメージをしながら、興味も広がりながら楽しめる内容になっていると感じました。また、付録として付いているポスタータイプの日本地図が、日本列島を北から南まで全部が分割されずに表示されているところが、それを見ながら、「日本ってこんなに縦に長いんだよね」など、イメージを膨らませながら楽しめるのではないかなと思いました。

続きまして、5番の「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助ける45の練習」についてお話しさせてください。親として、「子どもは今どういう気持ちなんだろう」と、子どもの気持ちを言葉にしてあげにくい場面があると思うのですが、「段階を追った設問で自分の気持ちを表現する」ということが書かれていたので、とても面白いなと思いました。

続きまして、5番の「チャイルドブックこども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」についてです。よく家でも何になりたい？と話したときに、おうちをつくる仕事がしたいなんて話題になったときに、先ほど先生からのお話もあったんですけども、この百科を見ると、「家作りのおしごと」というカテゴリーには、もっとこういういろいろなものがあるんだよとか、さらに詳しく子どもが興味を広げられるような記載があったので、とても楽しかったですし、見ているだけでも、わくわくするような色合いだったので、子どもと将来、何がいいかなと夢を膨らませられるような教材になるのではないかなというふうに感じました。

続きまして、生活・理科のところなんですが、私は5番の「野菜の上手な育て方大辞典」にとっても興味がありました。お店でも、「どんなふうになっているかな」というところまで分からなかったり、大人でも、「この野菜ってどこの国のどんなもの

だろう」と思うのは多いんですけれども、幅広い分野の野菜が記載されていて、とても興味が湧いて、楽しいものだったなというふうに感じました。

最後に、6番の「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」について、イラストが中心で、いろんなところに興味を持ちながら見ることができるものではないかなと思いました。なかなか自分の体の中のものというのは分からない世界なんですけれども、イメージを膨らませることで、より自分のことを大切にできる一歩になるのではないかなと感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。今、金田委員からは、生活・地図・社会の1番「学習かるた都道府県かるた」、それから、生活・地図・社会の5番「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助ける45の練習」、そして、生活・地図・社会の6番「チャイルドブックこども百科なりたい！わくわく！おしごとずかん」、そして、生活・理科の5番「野菜の上手な育て方大辞典」、最後に、6番「からだのふしぎけがとびょうきのナゾ」についてのご意見を伺いました。ありがとうございました。ほかにご意見はございますでしょうか。

村田委員

私は、今、金田委員のほうからもお話がありましたNo.3生活・地図・社会の教科領域の1番「学習かるた都道府県かるた」と、もう一つは、4番「写真図鑑カード特急・新幹線カード」についてお話をさせていただきたいと思います。

1番の学研、「学習かるた都道府県かるた」では、都道府県の形や地理的な特徴がかるたになっていて、かるた遊びを楽しみながら都道府県の名前が覚えられるところがよいと思いました。かるたの札を選ぶことで、地方を限定して少しずつ覚えていくこともできるかと思います。リングを通して暗記カードと

して使うこともできるということなので、子どもたちの興味や学習の進み具合に合った使い方を工夫することができると思います。大判の日本地図がついているので、日本全体の中で都道府県の位置を確認することもできます。

それから、もう一つの4番、くもん出版の「写真図鑑カード特急・新幹線カード」についてです。この図書は、既に国語・書写の教科領域の教科用図書として採択されていますが、今回は生活・地図・社会の教科領域での希望となっています。大判のカードで写真が美しく、電車や乗り物に興味のある子どもたちにとっては、手元にあるだけでわくわくして、学習が楽しくなると思います。また、乗り物への関心を深めることで、校外学習などの体験活動の充実につながると考えられると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。今、生活・地図・社会の1番「学習かるた都道府県かるた」と4番の「写真図鑑カード特急・新幹線カード」についてのご意見を伺いました。ほかにごありますか。

柴山委員 私は、No. 3とNo. 4で1点ずつお話しさせていただきます。私も、1番の「学習かるた都道府県かるた」が繰り返しゲーム感覚で都道府県の形や名称を覚えられるので、とてもいいなと思いました。また、これに「かるた読み上げ音声サービス」というのが付いていて、こんなにハイテクに学習できるんだなと感心しました。でも、やっぱり誰かが読み上げてやるのが一番いいのかなとも感じました。

あと、No. 4の1番の学研、「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」が仕掛けイラストになっていて、子どもたちはわくわくしながら、その仕掛けを開いて見るだろうなと思いましたし、

私も見ていて、細部まで細かく、部品の名前も書いていて、大人が見てもすごく楽しかったので、製造だったり、つくることに興味をもつ子どもたちが増えるんじゃないかなとも感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・地図・社会の1番「学習かるた都道府県かるた」、そして、生活・理科の1番の「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

堀部委員 では、私のほうからは3冊の図書についてお話しさせていただきます。

まず、No. 4 生活・理科、3番「ドラえもんの理科おもしろ攻略理科実験Q & A」についてお話しさせていただきます。

こちらは、子どもに人気のキャラクターによる観察・実験方法を読み慣れている漫画の手法で説明がされております。子どもたちの疑問を分かりやすい解説にしているので、興味深く読むことができます。1つの疑問に対して15ページ弱でまとめられております。押さえるべき事項に関しましては、丁寧な解説があり、意欲をかき立てます。また、各単元の終わりには「練習しよう」があるため、しっかり振り返りもでき、知識を確実に身につけることができると思いました。

次に、No. 4 生活・理科の教科領域の2番「子どもとマスターする45の操体法改定新版イラスト版からだのつかい方ととのえ方」について意見を述べさせていただきます。

この図書は、No. 6 体育・保健体育の教科領域の1番にも申請が上がっております。「息をする」からスタートし、「手当て」まで45項目ありますが、どれもじっくりと読んでしまう内容です。正しい姿勢、悪い姿勢の違い、また、立ち方によって重

心の位置が分かる図があるなど、全ての図が分かりやすくつくられております。基本、理にかなった体の動かし方、子どもが自分で体のずれを正すことができる方法、そして、2人で行うと、より効果的な方法を先生と、また、家庭では親子で取り組むことで、親子のスキンシップを通して、体だけでなく心の健康にもつながると思いました。タブレット等で自分や友達を撮影し合うことで、実際にどこを直さなくてはいけないか、視覚的にも取り入れることで、さらに成果につながると感じました。以前と比べてよくなっているか、自分の目で見られることは自信につながり、次への意欲につながるのではないかと感じました。この図書につきましては、生活・理科及び体育・保健体育で使用することは大変ふさわしいと思います。

それから、No. 3の生活・地図・社会、5番、合同出版の「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助ける45の練習」についてお話しさせていただきます。

先ほど金田委員からもお話がございましたが、心理的アプローチに基づき、45の項目に従って行っていきますが、1項目ごとにワークがあり、子どもたちは、これらをじっくり取り組むことで、自分自身の振り返りにもつながると思えます。また、ストレスとうまく付き合っていける柔軟さ、自分を大事に思うこと、自分が生きやすくしていくための手立てを自分自身が納得しながら学ぶことができると感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございます。生活・理科の2番「子どもとマスターする45の操体法改訂新版イラスト版からだの使い方ととのえ方」、そして、この本は調査書まとめの中でNo. 8の体育・保健体育の領域の1番にも希望が上がっております。この本についてもご意見を伺いました。さらに生活・地図・社会の5番「イラスト版子どものストレスマネジメント自分で自分を上手に助

ける45の練習」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

宮崎委員　　私は、生活・地図・社会の7番、日本教育研究所の「ひとりだちするための算数・数学」について述べたいと思います。

この図書は、基礎的な学習を定着させることができ、算数・数学の領域ですでに採択されています。加えて、例えば、買物に行くとか、バスの時刻表を見ながら出かけるというような場面、実生活につながる具体的な場面に結びつけて、体験的な学習を通して、考え、学んでいくことができるように工夫されています。このことは、子どもたちが中学校を卒業した後の自立した生活をイメージして、知識や技能を身につけるために大変効果的だと考えます。また、重さ、長さ、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフの読み取りなど、具体的に分かりやすく示されていて、スモールステップで学べるということから、グラフや統計資料を活用する地図の学習とか、社会科の学習にもより取り組みやすくなるというふうに思いました。

以上です。

委員長　　ありがとうございました。生活・地図・社会の7番「ひとりだちするための算数・数学」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

原委員　　私は、No.3生活・地図・社会の3番の「おてっだいの絵本」についてお話をさせていただきます。

目を引くかわいいイラストで、お手伝いの仕方、進め方が描かれており、ついつい読み入ってしまいました。お手伝いはコミュニケーションの機会でもあり、生活していく上で働くことの大切さを教えてくれています。家族や支援者のためにお手伝いをして喜んでもらうことで児童の自信につながればいいなど

感じました。言葉や文字だけで想像しづらい児童には、視覚から入ることで理解しやすく、支援する側としても、イラストの教材を用いることによって伝えやすくなると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。生活・地図・社会の3番「おてつだいの絵本」についてご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

深津委員 私からは、生活・理科の7番、福音館の「かがくのとも絵本ほね」についてお話しします。

この本は、親しみやすいイラストで、骨について子どもたちが理解しやすいような流れで描かれています。骨はどんなものなのか、骨の働きはどういうことなのか、また、動物によって骨格の違いがあるというようなことが無理なく理解できて、そして、楽しみながら何度でも見たくなるような構成になっていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・理科の7番「かがくのとも絵本ほね」についてのご意見を伺いました。ほかにも、ご意見はございますでしょうか。

松川委員 私は、No. 4 生活・理科の中から8番の「福音館の科学シリーズあそびのレシピ」についてお話しさせていただきます。

この図書は、すでに生活・地図・社会、図工・美術の教科用図書として採択されています。今回、生活・理科の教科用図書として希望が出ています。福音館の「あそびのレシピ」は、身近な材料を使う遊びのレシピが多数紹介されています。写真やイラストで遊びの工程が視覚的に示されているので、子どもが

やってみたい、作ってみたいと興味関心を持って学習することができると思いました。作る過程の楽しみや出来上がったものを味わう楽しみ、作品を通しての友達との交流など、多様な学習活動が行うことができると思うので、生活・理科の教科用図書としてもふさわしいと思います。

委員長 ありがとうございます。生活・理科の8番「福音館の科学シリーズあそびのレシピ」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

一瀬委員 私も、同じくNo. 4生活・理科の1番「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」、それから4番「小学館の図鑑NEO〔新盤〕科学の実験DVDつき」、それから、5番「野菜の上手な育て方大辞典」の3冊について意見を述べさせていただきます。

初めに、1番、学研の「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」についてですけれども、こちらは子どもたちにとって、ふだん目にすることの多い機械や乗り物についての仕組みがとても分かりやすく示された図鑑で、「家のなかで」「まちのなかで」「のりもの」といった3つの構成になっております。特に「家のなかで」では、トイレや扇風機、そしてエアコンなど、子どもたちが毎日の生活の中で興味をもちそうな機械について、イラストをめくってみると、そのめくった中に機械の中の様子がイラストで示されています。子どもにとって、めくって中を見ろという行為がとてもわくわく感をそそります。めくりがある大きな絵で興味をそそった後には、その次のページに、例えば洗濯機の歴史といったそのものに対しての詳しい内容も記載してありまして、興味をもった子どもにとってさらに学びを深めることにもつながるといふうに感じました。この本はすでに国語・書写で採択されている図書ですけれども、改めて生活・理科の図書として使用することもふさわしいと思いました。

次に、4番の小学館、「小学館の図鑑NEO〔新盤〕科学の実験DVDつき」についてですけれども、こちらは200種類もの新しく楽しい実験が紹介されております。実験のレベルが3つに分かれていますので、子どもたちの実態であったり、かけられる時間によって、それぞれ選択することがとてもしやすいなというふうに感じました。また、実験道具の作り方などについても、手順に沿ったイラストや写真が掲載されておりますので、どのような実験なのかなと選ぶ段階でも、イメージを容易に持てるようになっていきます。道具の扱い方や実験の心構えなども、そういった安全面についても、とても配慮されていて、使いやすいなというふうに感じました。

最後に、3冊目ですが、5番の成美堂出版の「野菜の上手な育て方大辞典」です。こちらは葉菜類と根菜類など野菜の種類ごとにまず目次がつくられているんですけれども、プラス、収穫できる時期ごとにも分類されて掲載されています。この野菜を作りたいんだけどなど、目当てを持って野菜を探すときにも探しやすいですし、また、漠然と何の野菜を育てようかなというふうに検討する際にも、とても探しやすい、見やすい構成になっていると思いました。野菜それぞれに種まきのところから収穫まで、写真を中心にした作業プロセスが掲載されているんですけれども、特に手元がアップに写っている写真が多く載っておりまして、例えば種や苗をどのように扱うのかなというのもとても詳しく、納得できるような内容になっていると感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。生活・理科の1番「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」、そして、4番の「小学館の図鑑NEO〔新盤〕科学の実験DVDつき」、そして、5番の「野菜の上手な育て方大辞典」についてのご意見をいただきました。ほ

かにご意見はございますでしょうか。

川島委員　　今、一瀬委員から幾つか図鑑のお話があったのですが、私も図鑑が大好きで、いろいろ見ましたので、お話をさせていただきたいと思います。

まず、1点目ですけれども、「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」です。学研のものですが、何が隠れているのかなという子どもの好奇心をくすぐる、「めくる」という、活動がいいなと思いました。機械のデザインとか構造という内容は、ちょっと難しいかなと思うところもありましたけれども、きっと何度もめくるうちに、何が書いてあるかというのを子どもは覚えるのだろうなと思いながら、自分も何度もめくっていました。特に担任と一緒に「何が出るかな？」とやっている姿を想像しただけで楽しくなってきました。

ちょっと別の話になりますけれども、めくるという動作が、指や手を細かく正確に操るといふ巧緻性と言いますけれども、そういう力を育成するのにもつながるかなと思いました。

もう一つ、やっぱり図鑑なのですが、「野菜の上手な育て方大辞典」です。これも一瀬委員から話がありましたが、育てる野菜が106種も載っているのです、子どもたちにとって身近なものと身近ではないものもあつたりします。けれども、写真を見ているうちに、「これは何だろう」とか、「これ知っている」とかがあつて、先生と一緒に、「どれを作ってみたい？」とか、「どれがおいしそう？」とか言いながら見ていく。先生のほうでも、「じゃ、これ作ってみようか」と決めたときに、どんな畑の用意をすればいいのか、どういうふうに植えればいいのか、その途中でどんな手入れをすればいいのかを考えることができます。

よく子どもたちが米作りの勉強をするときは、田んぼに行つて田植えをしたり、収穫の頃に稲刈りをしたりするのですが、

この図鑑を手元に置きながら、畑を準備して、苗なり種なりを植えて、写真と同じように育てて、もしくは写真と同じようには育たなくて、立派に収穫ができて、もしくはちょっとだけ収穫ができて、または途中で枯れてしまったりすることもあるかもしれないけれども、その途中途中を子どもたちが体験するというのはすごく大事なことなのかなと思いました。もし収穫できれば、やっぱり子どもたちにとっては、すごく楽しいことですし、その成長を観察する、飽きることなく取り組むことができる、その結果、おいしいものが採れたらいいのかなと思いながら、やっぱり図鑑はわくわくするなと思いながら見ました。

もう一つ、生活・地図・社会のほうの2番「名人はっけん！ まちたんけん」ですけれども、パン屋さんで始まるのですが、小学校3年生で町たんけんが入ってきます。その辺と上手にリンクしながら、特別支援のほうで使えたらいいのかなと思いながら見ました。子どもたちはパンを作っているところは、あまり知らなかったりするけれども、パン屋さんはやっぱり子どもたちにとって、とても身近な職業です。そんな身近なところから、次に、ケーキ屋さん、おそば屋さん、お弁当屋さんなどが出てくるのです。身近だなと思っていると、そのうち、陶芸家さんとか畳屋さんとか傘屋さんとか、正直、身近ではないところまでいろいろ出てくるのですけれども、そういうなじみの薄い仕事にまでつながっているというのもいいなと思いながら見ました。子どもが後々何か手に職をつけていくというときに、必ずしもなじみのものであるとは限らないですし、そういったのもいいかなと思いました。

そして、このシリーズについては、今回は「つくるひと」という本なのですが、これ以外にも「くらしをささえるひと」とか「そだてる・とるひと」とか、いくつかシリーズがあるようです。今回、これしか見ていないのですが、そういったものも教科用図書で使えるようになったら有効なのではないか

と思いながら、見させていただきました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・理科の1番「めくって学べるきかいのしくみ図鑑」、そして、5番の「野菜の上手な育て方大辞典」、さらに、生活・地図・社会の2番「名人はっけん！まちたんけん（1）つくるひと」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。

それでは最後に、No. 6 図工・美術からNo. 10 道徳の教科領域で申請が上がっている14冊の図書についてのご意見を伺いたいと思います。先ほどの教科領域で申請されている図書も含まれておりますが、加えてご意見などがありましたら、おっしゃっていただければと思います。よろしく願いいたします。では、ご意見をお願いします。

柴山委員 私は、No. 6 の図工・美術とNo. 10 の道徳でそれぞれお話しさせていただきます。

No. 6 の図工・美術の4番、小学館、「小学館の図工NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」なんですけど、本当にとってもリアルな乗り物の紙工作で、乗り物が大好きな子どもたちにとっては、本当にわくわくしながら作り上げられるものだなと感じました。ただ、とても精巧なんですけれども、はさみを使わずに切り取り線を切り取って、形を抜くようになっていますが、用紙がぎっちりそこに集まっているので、切るときに、集中して切らないと破れたりとかしてしまうんじゃないかなと感じました。ただ、図工が好きな子でも、この作品を1つ作る

うと思うと達成感というか、作ったときの達成感はすごくうれしいと感じるものだなと思いました。

あと、No. 10の道徳で、6番の三省堂、「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」なんですけど、いろいろな場面で活用できるマナーについて、いろいろイラストで描いてあるんですけど、この場面にならなきゃ体験できないというものがたくさん入っていて、親子で見るのが一番いいなと感じました。イラストを視覚からもイメージしながら、こういう場면을きっかけにしながら学べるというのか、道徳なので、どう言葉を使ったらいいかとかを考えながら、話しながら、できる教材だなと感じました。

以上です。

委員長

ありがとうございます。図工・美術の4番「小学館の図鑑NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」についてと道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

金田委員

私は、No. 10道徳の5番「子どものマナー図鑑(2)食事のマナー」についてお話しさせていただきます。

すごく日常なんだけれども、細かいマナーが載っていて、私もはっとさせられる場面がたくさんあって、これは子どもが自分の毎日の生活にとっても目を向けて、じっくり取り組むためにもとてもいいものではないかなというふうに感じました。また、お店によっても違うんだよということが記載されているところ、そのお店もすごく身近なお店だけれども、やっぱり違うんだよねというところが書かれているのがすごく興味深かったです。これを子どもが学校で学んだら、「お母さん、それ違うよ」とか、家の中でも、そういうやり取りが増えて、楽しくなりそうだなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。道徳の5番「子どものマナー図鑑（2）食事のマナー」についてご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

村田委員 私は、No. 6 図工・美術のほうにちょっと戻っていくんですけども、そこから2番の学研、「学研の幼児ワーク3～4歳こうさく」、3番、くもん出版、「こうさく2はじめてのかみこうさく1集」、4番、小学館、「小学館の図鑑NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」について意見を述べます。

まず、2番の学研、「学研の幼児ワーク3～4歳こうさく」、これは手先を目的に合わせて器用に動かしたり、道具を使いこなしたりする力を楽しみながら身につけられると思います。1枚ずつ出来上がりが楽しみになるような仕掛けがあって、子どもたちが興味をもって、はさみで切る、のりで貼る、指で折るなどの作業を学べると思います。

それから次に、3番、くもん出版の「こうさく2はじめてのかみこうさく1集」、これは今のものと同様に、楽しく工作しながら、手や指の機能を高められます。こちらのほうは絵にストーリー性があるって、好きなものを選んだり、続きを想像したりしながら、工作に取り組む楽しさがあります。

最後に、4番、小学館、「小学館の図鑑NEOクラフトぶっく新りったい乗りもの館」は、今、柴山委員もおっしゃっていたんですけども、道具を使わずに作れるようになっています。立体を仕上げるのに、細かい手先の動きの調整が必要なので、難しいんですけども、逆に集中力とか巧緻性といったものを養うことができると思います。出来上がりがリアルなので、達成感を得ることができ、また、次の作品を作ってみようという意欲につながるものだと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。図工・美術の2番「学研の幼児ワーク3～4歳こうさく」と3番の「こうさく2はじめてのかみこうさく1集」と4番の「小学館の図鑑NEOクラフト新りったい乗りもの館」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

堀部委員 私の方からは、3冊の図書についてお話しさせていただきます。

まず、No. 6 図工・美術の5番、メイツの「小学生のための『世界の名画』がわかる本」について意見を述べます。

海外、日本の名画と親しまれているものを数多く掲載されておられます。教科書では、絵画と画家名しかありませんが、こちらには、エピソードや画家の一生等、説明がしっかりあるため、より深くそれぞれの画家について学ぶことができます。「こんな絵だよ！」では、その制作時の状況や構図、サイズ等、様々な情報を得られることから、新たな物の見方が感じられる機会になると思います。また、絵画ごとの表現方法の違いに気づき、人と違う個性のよさ、自分の表現に自信をもてることにつながる1冊ではないかと思いました。

次に、No. 10の道徳、5番、偕成社の「子どものマナー図鑑（2）食事のマナー」では、先ほど金田委員からもお話がございましたが、ミルフィーユやソフトクリームの食べ方まで載っておりました。様々な食事の場面でのマナーや食べ方が掲載されております。基本のマナー、基本のテーブルマナー等、大変細やかに絵と文で分かりやすく説明されております。和食、中華、洋食店での基本的なマナーについて解説があります。児童にとって大変役立つと感じました。保護者とも共有し、日々、食事をする中で人を不快にしないマナーが身につけられると

もに、相手意識を高め、周りの人を思いやれる心を育めるよう、つくられていると感じました。

次に、No. 10 道徳の8「福音館の科学シリーズただいまお仕事中」では、多くの子どもたちがなりたい仕事について詳しく取り上げられており、どのような仕事内容があるのか、絵と文で分かりやすく紹介されています。また、「どうしたらなれますか？」で意欲を高め、「どんな子が向いていますか？」では、自分自身を冷静に捉えさせ、なりたいと漠然に思っていた場合には考えさせることができる機会となり、ほかにも多くの仕事があり、皆が支え合っていることに気づいたり、将来の仕事について、さらに考えたりすることができるので、大変ふさわしいと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。図工・美術の5番「小学生のための『世界の名画』がわかる本」について、そして、道徳の5番「子どものマナー図鑑(2)食事のマナー」、そして、8番の「福音館の科学シリーズただいまお仕事中」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

原委員

私からは、それぞれに1冊ずつお話をさせていただきます。

まず初めに、No. 6 図工・美術の1番の「ちょこっとできるびっくり！工作(3)せんたくばさみのふしぎ工作」についてお話をさせていただきます。

家庭にある洗濯ばさみを使って様々な作品を作り出す発想に魅力を感じました。工作が好きな児童はもちろん、触れる、つかむ、飛ばす、大きさの違いを感じるなど、児童の特性に合った楽しみ方ができ、考える力が養われるのではないかと思います。単純にくっつけて積み上げていくだけでも、「どんな形に出来上がるかな」と、イメージが膨らんだり、作り上げていく

楽しさを味わうことができる教材になっていると思います。また、自分のペースで進めていくことで集中力を高められ、学ぶ意欲につながるのではないかと感じました。

続きまして、No. 10 道徳、6 番の「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてお話をさせていただきます。

この絵じてんでは、家での生活、学校や公共の場、社会生活の場面など、児童の生活に必要なマナーや生活習慣を分かりやすくイラストで紹介されています。思いやりや助け合いの大切さを学ぶことで自立の心を芽生えさせ、将来に向けた職業自立を目指す上で、きちんとしたマナーを身につけるための有効な教材だと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」と道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

深津委員

私からは、道徳の中の5冊の本についてお話しさせていただきます。

まず、1番、2番、3番、4番の旺文社の「学校では教えてくれない大切なこと（8）時間の使い方」、「学校では教えてくれない大切なこと（11）友だち関係（考え方のちがい）」、「学校では教えてくれない大切なこと（18）からだと心」、「学校では教えてくれない大切なこと（19）楽しくお手伝い」について、まとめてお話しさせていただきます。

この4冊は、自分のことや相手のことを知る大切さと世の中の様々な仕組みが漫画で楽しく描かれていて、何度でも読みたくなる内容になっています。漫画なので具体的な場面が想像しやすく、身近なこととして捉えやすいと感じました。また、

さらに押さえておきたいことが絵で分かりやすくまとめてあるので、望ましい行動について理解しやすいと思います。それから、分かりにくいことが視覚化されているので、子どもたちにとっては認識しやすいなと思いました。

それから、7番のひさかたの「でんしゃでいこうでんしゃでかえろう」について意見を述べさせていただきます。この本は、後ろからも前から読めるという構成が面白いと思いました。また、各ページにトンネルの入り口、出口が切り取ってあって、子どもが興味をもって繰り返し見たくなるつくりになっています。トンネルを抜けると景色が変わっているので、飽きません。また、トンネルに入るたびに電車の中にいる人たちの様子が変わっているので、それぞれの人物の状況や気持ちについて関心をもって考えることができると思いました。この図書は、すでに国語・書写、生活・地図・社会の教科領域で採択されていますが、道徳の教科用図書として使用することもふさわしいと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。道徳の1番から4番の「学校では教えてくれない大切なこと」のシリーズの4冊、「(8) 時間の使い方」、「(11) 友だち関係(考え方のちがい)」、「(18) からだと心」、「(19) 楽しくお手伝い」についての4冊、そして、道徳の7番の「でんしゃでいこうでんしゃでかえろう」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

松川委員

No. 6 図工・美術の1番、偕成社の「ちょこっとできるびっくり！ 工作(3) せんたくばさみのふしぎ工作」についてお話しさせていただきます。

先ほど原委員もおっしゃっていましたが、身近にある

洗濯ばさみで、はさむ力、バネの力を利用して、びっくりするような楽しい遊びができるおもちゃの作り方が紹介されています。素材の力を生かして、科学のセンスもあり、子どもたちが興味関心をもって学習ができると思いました。身近にある材料を手にして、並べたり、つないだりすることを通して、手を働かせて、いろいろなものを作ることができることに気づくことができると思いました。また、その活動を通して、見たり、感じたりする喜びを味わったり、感性を育んだり、楽しく豊かな生活をつくろうとする活動につながると感じました。

委員長 ありがとうございます。図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

一瀬委員 私は、道德の6番、三省堂の「こどものマナーとけいご絵じてん小型版」についてお話をさせていただきます。

先ほどから、柴山委員や原委員のほうからもお話がありましたが、私もこの本はとてもいいなというふうに思いました。子どもの毎日の生活にとっても寄り添った内容が記載されておりまして、一つ一つ、とても丁寧に、それぞれの場面に応じてだったり、相手に応じてだったり、それから、言葉遣いや態度をそれぞれ詳しくマナーやたくさんイラストとともに示されているので、子どもにとって、とても分かりやすいなというふうに、イメージできるなというふうに思いました。

例えば、ファストフード店ではどうするかとか、回転ずし店ではどうするかなど、今の子どもたちの生活にとっても合った例もたくさんあり、また新たな体験、初めて回転ずしに行ってみようみたいな、そういう初めての体験のときにも、事前学習として活用しやすい、そんなふうに思いました。また、「おうちの

かたへ」というコーナーがあるんですけれども、大人向けの解説もしっかり書いてあって、学校で指導の際にも、ポイントを押さえながら、子どもたちに伝えること、学ばせることができるなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにご意見はございますでしょうか。

澤野委員 先ほど原委員、それから松川委員からお話がありましたが、私も図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」についてお話をさせていただきます。

洗濯ばさみは、色も形もバラエティーに富んでおり、手軽に購入できる子どもにも馴染みのあるものです。また、親指、人差し指、中指の3本の指を使って操作する洗濯ばさみは、上手に指先を使う力を高めるための教材としても優れているなというふうに思います。この洗濯ばさみという身近な材料を使って、造形的な見方・考え方を働かせ、形や色などと豊かに関わることができるというふうに考えました。

ページ全体が優しい色合いで、作品そのものや、その作品で子どもが遊ぶ様子を撮った写真が各ページに大きく掲載されています。自分も作ってみたいなという子どもの意欲につながるというふうに思いました。また、作り方がイラストで示されていますが、色遣いが控えられており、焦げ茶色の実線のみで描かれているため、ページ全体がすっきりとしています。洗濯ばさみ同士をつなげて作る恐竜は、子どもが自由にどんどん形づくっていくことが想定されます。さらに、自分なりのつなげ方で思いもよらない形が生まれ、「こんな作品ができたよ」と人に

見せることで、楽しみながら鑑賞することにつながるのではないかなというふうに思いました。

続けて、もう1冊、よろしいでしょうか。先ほどから何人かの委員さんからご意見が出ていますが、私もNo. 10 道徳の6番、三省堂の「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてお話をしたいと思います。

子どもの頃に多くの人と触れ合って、思いやりや助け合いの大切さを学ぶことは、生きていく上で大きな財産になります。毎日を気持ちよく過ごすためのマナーや言葉遣いを身につけることは、周りの人とのよい人間関係を築くことにつながるというふうに考えます。

この図書は、皆さん、おっしゃっていましたが、子どもの生活に寄り添った場面を設定し、イラストや解説を基に、子どもが自分事として捉え、道徳性が高められるような構成になっています。基本的な挨拶や姿勢、学校での過ごしなど、明日から取り組める内容から、親戚の家に行くとき、デパートやショッピングセンターでのマナー、レストランや旅館、ホテル、電車に乗るときなど、公共の場面でのマナーについてなど、多岐にわたった場面設定がされています。

ページ数や分量はやや多いというふうに感じましたが、一人ひとりの課題や身につけてもらいたい態度やマナーに応じて題材を選ぶことができるので、多くの場面が設定されているのはよいと思います。また、「友だちになるには」、「いっしょに遊ぶとき」、「物を貸したり借りたりするとき」、「友達とうまくいかないときは」など、具体的な場面を設定して、友達とよりよい人間関係を築くためにはどうすればよいのか。子どもが主体的に考え、議論する道徳につながる題材も取り扱っていますので、道徳の教科用図書としてふさわしいと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。図工・美術の1番「ちょこっとできるびっくり！工作（3）せんたくばさみのふしぎ工作」、そして、道徳の6番「こどもマナーとけいご絵じてん小型版」についてのご意見を伺いました。ほかにはいかがでしょうか。ご意見ございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。それでは、ほかにご意見がないようですので、議題1「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議はここまでとしたいと思います。

 ここで10分間ほど休憩としたいと思います。

委員長 それでは、審議を再開いたします。

 次第をご覧ください。議題2「令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。

 前回、つまり令和元年度に行われた小学校の採択替えの答申については、各議題の審議結果をまとめた審議のまとめを作成し、会議録を添付資料としておりました。今回の答申をどのような形にするか、ご意見をお願いします。

川島委員 以前頂いている前回の答申の結果を読ませていただきました。これはちょっと分厚いなとは思いつつも、すごく分かりやすいなと思いました。ですので、前回と同じように、今回の審議をまとめたものを答申という形にするのがいいかと思います。いかがでしょうか。

委員長 ありがとうございます。ほかにはご意見はございますでしょうか。

一瀬委員　私も今の川島委員のご意見に賛成します。答申としてお示しするには、やはり審議の結果が分かりやすいということが一番大切かなというふうに考えます。審議の結果を前回、令和元年度のように、委員の皆様のご意見を総括的にまとめたものを答申として、さらに参考として会議録をつける、そんな形であるのがいいのかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

委員長　それでは、今、答申については、審議の内容をまとめたものを作成し、会議録については参考に添付するというご意見を2人の委員からいただきましたが、その方向でよろしいでしょうか。

各委員　結構です。

委員長　それでは、答申については、2回目の小学校用教科用図書の審議、並びに3回目の特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用の教科用図書についての審議を審議の結果としてまとめ、答申するとともに、資料として会議録を添付することといたします。

改めて、議題2「令和6年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」2点確認をします。

まず、1点目の第2回審議委員会における議題「令和6年度使用小学校教科用図書の審議について」は、審議してきた結果を種目ごとにまとめた資料を私のほうで作成し、それをもって答申とすること、また、審議の会議録を資料として添付し、答申するということがいかがでしょうか。

各委員　結構です。

委員長 2点目として、本日の議題1「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」は、子どもの実態や発達段階に応じて幅広く一般図書の採択が可能となるように、昨年度まで採択している一般図書は引き続き使用できること、今回審議を行った教科用図書として使用したいと考えている新規の図書や複数種目で希望がある一般図書はいずれも適切であることと考える旨を答申したいと考えますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

なお、会議録につきましては添付資料とし、私と署名委員の繁里委員が確認した後、答申するようになりたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ほかにご意見はありますか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。それでは、議題2についての審議を終了いたします。

これで予定されていた議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して皆様から何かご意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、事務局から何かございますでしょうか。

事務局 ご審議ありがとうございました。それでは、今後の予定について説明いたします。

事務局といたしましては、今後、本審議委員会の会議録を作成いたしまして、審議委員長にご確認いただきます。審議委員長におかれましては、ただいまの審議の結果を踏まえて答申を作成いただき、会議録を資料として添付し、委員長と繁里署名委員に確認をしていただきます。その後、審議委員長から教育長へと答申を行うという流れでお願いいたします。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、これもちまして全ての審議を終了いたしましたので、第3回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員